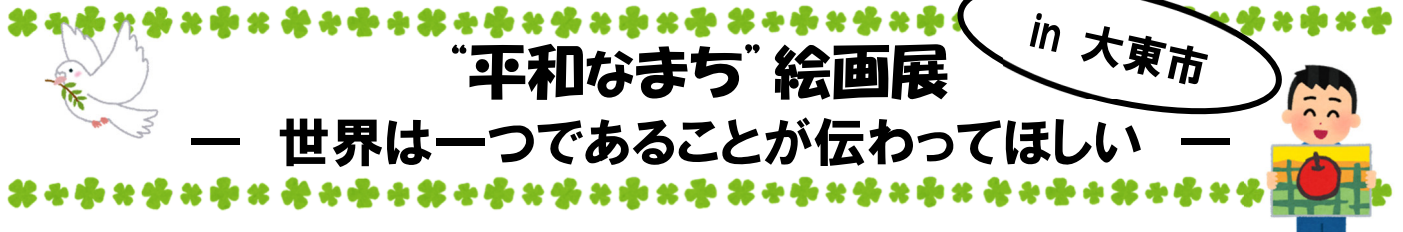


人権啓発ネットワーク大東機関誌

第22号 2021年11月

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268



2021年9月26日(日)、大東市立市民会館キラリエホールにて“平和なまち”絵画展 in 大東市が開催されました。これは、夏休み中に市内在住の6歳から15歳の子どもたち対象に、『平和なまち』をテーマにした絵画を募集したもので、会場にはおよそ100点もの作品が展示されました。

広々とした会場で、入り口での検温や消毒が徹底されており、安心して鑑賞ができました。作品は、年齢ごとにまとめて展示されていて、一つ一つの作品に、作者からのメッセージがありました。作品とメッセージを合わせて鑑賞していくことで、子どもの成長の段階によって、『平和』をどのようにとらえているのかが、よくわかります。年齢の小さな子どもたちがとらえる『平和なまち』は、「みんなが一緒に遊べる、人間も動物も一緒に楽しく暮らせる」という表現が多くありました。絵の中の人も動物もとても楽しそうです。年齢が上がるにつれて、「障がいのある人も暮らしやすい」であるとか「戦争で亡くなる人がいない」「川や海をきれいに」など、『福祉・平和・環境』へと、視野が広がっていくように思えました。12歳以上になると、日本の中だけでなく、世界中で起きている『紛争・貧困』をテーマにしている作品もありました。



そして、今の世相^{せそう}を表すように新型コロナウイルスに対する思いが表現されている作品も多有りました。「コロナがおさまって、マスクを外して笑っている」、そんな世界を描いている子どもたちが多くいました。

日本中、世界中が閉塞感^{へいそくかん}の中にある現在ですが、大東市の子どもたちが『平和で暮らしやすい街』について一生懸命考え、その願いを絵画で表現してくれた作品展。最後に、12歳の作品に込められたメッセージを紹介します。

『私は、この何か国もある世界で、みんな違っていいと思います。

ですが、みんな「平等」であるべきです。

この作品を通して、世界は一つであることが伝わってほしいです。

今、貧困や差別で苦しんでいる人たちが、いつの日にか少しでもいいから笑ってほしい』

この願い、かなえたいですね。

(レポーター：みかん)

となりの ^い ^い 活き生きサン

ここでは、大東市の人権推進につながる取り組みを行っておられる方々や団体の紹介をさせていただきます。

うた ^{うた} 旅立ちの詩～彼女たちの ^{らしんばん} 羅針盤～

大東市男女共同参画啓発事業として、^{たにのうえともみ}谷ノ上朋美さんによる一人芝居が上演されました。昨今の新型コロナウイルス感染予防対策として、市民の皆さまには希望者限定の動画配信となります。今回の「となりの活き生きサン」は、その収録現場にお邪魔して、レポートします。

収録は、大東市総合文化センター多目的小ホールで行われました。舞台上には、グランドピアノと椅子が数脚、テーブルの上にドリンクが置かれているだけという至ってシンプルな ^{しつら} 設えです。

いよいよ開演。舞台袖から美しい歌声が流れてきました。「どこへ行けばいいの…」と訴えかける悲しくも美しい歌声に ^{みりょう} 魅了されているうちに、一人目の登場人物が明るい表情で登場します。設定は、アルテシア女学院の同窓会のです。ミサキというその女性は、快活な話ぶりで、同窓生と思い出話に花を咲かせています。が、次第に学生時代の自分のあだ名、それが容姿コンプレックスにつながったというミサキ。徐々に自身の今の環境、生きづらさを ^{とろ} 吐露していくのです。容姿コンプレックスから美容整形を繰り返し、デート ^{ていぶい} D V、望まない妊娠、子どもへの ^{ぎゃくたい} 虐待。人生を悲観していたときに、偶然出会った同窓生「ミト」に救われ、今日は、そのお礼を言うためにこの会に来たことを、語ります。この辺りから、もう谷ノ上さんは登場人物ミサキにしか見えず、一人芝居のはずなのに、周りにたくさんの同窓生がいるように感じてきます。

ミサキが、ミトを探しに行く間に、次に現れたのは、タカコ。もちろんこの人物も谷ノ上さんが演じているのですが、快活なイメージのミサキとはまるで別人。そこが一人芝居の ^{だいごみ} 醍醐味かもしれません。



このタカコも、自身の性的指向から、「普通」って何なのか、自分の生き方は「普通」ではないのかと悩みながら過ごしていました。そんなタカコを救ってくれたのも、ミトだったのです。

ミサキとタカコを救ってくれたミト。しかし、ミトもまた、^{ふにん} 不妊という悩みを抱えていました。同窓会の場に入りづらく、一人彷徨うミトを見つけたミサキとタカコ。二人は、悩むミトに、かつて自分が救われたというミトからの言葉を返します。

『ありのままでええやん。今の自分を受け入れることから、前に進むしかないやん。』

時を越えて、三人を結びつけた言葉こそ、谷ノ上さんが一人芝居を通して伝えたかったことなのかもしれません。

閉演後、谷ノ上さんと監督との、アフタートークの収録にも立ち合わせていただきました。谷ノ上さんは、本編とアフタートークまでがセットで届けたいということなのです。（アフタートークのオンライン配信については他市での収録分です。）

トークでは、谷ノ上さんが一人芝居の師匠^{ししょう}として尊敬する新屋英子^{しんやえいこ}さんとの出会い、芝居を離れて自身の生き方を模索^{もさく}していたことなどが語られました。



た。看護師の仕事、カウンセリングの仕事を重ねるうちに、「自分なんか」という思いから、「今の自分で大丈夫」と思える事が、人生で一番大切だと感じ、一人芝居を通じて発信していこうと思うようになったそうです。

今の時代、様々な「普通」に縛^{しば}られて生きづらさを感じている人は、きっとたくさんいると思います。谷ノ上さんは、そんな「普通」に縛られる社会を変えていくためには、一人芝居は小さな力かも知れないけれど、さざ波のように少しずつ少しずつ広がっていったらと、願いを語ってくださいました。
(レポーター：みかん)

シリーズ —新型コロナウイルスと人権— その4

(9月末に書いた記事です)

「葛藤」^{かつとう}を受け止め、共生・共存をいっしょに考えよう

5波におよぶコロナ禍で、障がい福祉サービス、高齢福祉サービス、児童福祉サービスなどの「社会福祉事業」を推進する大阪府内の事業所においては、利用者や職員の新型コロナウイルスの罹患^{りかん}や濃厚接触など、様々な状況が聞かれました。感染リスクの緊張状態の中で、福祉現場では、利用者の感染防止対応や具体的支援に奮闘^{ふんと}してきました。そんな中、職員のお子さんの学校や幼稚園、保育園等が休みになったため、職場への出勤が困難になり、事業所の業務継続が綱渡りになったという事態も見られました。

これまで取り組んできた行事やイベント・企画等が中止や延期になり、様々な変更や制限を行わざるを得ない状況がずっと続いています。また、SNSのWeb会議^{エスエヌエス ウェブ}システムを活用した会議や研修に参加することが、日常化しています。

あらためて、福祉現場で働く皆さんに感謝とリスペクトの思いでいっぱいです。

利用者や職員一人ひとりの接種希望を聞きながら、2回のワクチン接種を実施しましたが、「デルタ型変異ウイルス」の猛威^{もうい}の中で、今後どうなっていくのか、不安が渦巻く状況が続いています。

新型コロナウイルスは、「病気」の感染、「不安」の感染、「差別」の感染という、「三つの感染」があると言われます。そして、この感染によって、私たち人間同士が「分断」^{はいしゅう}されてしまうことに警鐘が鳴らされています。

人に会ったり、握手したり、語り合ったり、飲み合ったり、交流したりしたいのに、「密集しない」「密接しない」「密閉しない」ように、飛沫防止のマスク着用や手洗い・消毒や換気など、日常生活の中で感染防止行動を徹底することが求められます。直接会って、ゆっくり語り合うことがなかなかできないわけです。以前の生活行為^{しよきぎ}や所作^{さく}のパターンを回避^{かいひ}し、感染防止行為を実施していかなければならない状況の中で、日々、心

の「葛藤」が続いています。

私は、「コロナが落ち着いたら、また〇〇したいね」と口癖くちくせのように言ってきましたが、霧きりが晴れたようにはいかない状況が続く中で、「ぼちぼちいきましょう」という言葉に変化してしまいました。

地球的規模でワクチン接種など免疫性めんえきせいを高めること、「治療薬」の開発・普及など、「収束」や「終息」に向けては、「一定の時間」がかかると考えられます。そのくらい、この度の新型コロナウイルスは、大変悩ましいウイルスであると思います。

年末や新年にかけて、「第6波」やそれ以降の感染の波など様々想定されますが、みんなが抱えている「葛藤」をお互いに受けとめ、共有し、「分断されないぞ」という思いを持ちながら、自分自身の課題として、コロナ禍における共生・共存をいっしょに考えていきたいと思っています。

(レポーター:ねこたん)

12月10日(金)

午後7時開演(30分前開場予定)
サーティホール(大ホール)

市制施行65周年記念事業

人権週間記念のつどい

古謝美佐子コンサート

～平和への祈りをうちなーの唄にのせて～

無料
(入場整理券要)



沖縄かりゆし会



古謝美佐子

☑古謝美佐子さんによるトーク&コンサート、沖縄かりゆし会によるエイサー

☑500人

☑要約筆記・手話通訳あり

☑11月19日から人権室、総合文化センター事務所、アクロス、まなび北新、市民体育館、北条人権文化センター、野崎人権文化センター、諸福老人福祉センター、来ぶらり南郷

☑人権啓発ネットワーク大東事務局 ☎870・0441 ☎872・2268

★ 会員募集

人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。
人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。
会費等はありません。



★ ヒューマンライター募集

大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の取材をしていただける方(ヒューマンライター)を募集します。

【応募方法】様式は問いません。

ご住所 お名前 電話番号を記載の上 郵送、FAX でお願ひします。

〒574-8555 大東市谷川1-1-1

大東市役所 (市民生活部 人権室内)

人権啓発ネットワーク大東事務局

TEL: 072-870-0441

FAX: 072-872-2268

Facebook(フェイスブック)

人権啓発ネットワーク大東の活動がみなさんに届くよう、
Facebook ページを開設しました！ぜひ、フォローお願いします！

(Facebook で「人権啓発ネットワーク大東」を検索！⇒)

